

# 大山滝の飛沫に、束の間の涼。



中国地方の最高峰で、伯耆富士と呼ばれる大山(標高1,729m)の東斜面に位置する大山滝を撮ろうと思い立った。2段に落ちる美しい滝だという。

米子市から国道9号線を東に走り、浦安町で右折して県道44号線に入る。地藏峠を越えると駐車場があり、登山道になる。木道(別名を“天国の階段”というらしい)を下り、加勢蛇川に架かる大山滝吊橋を渡る。見下ろせば千尋の谷で、かなりスリリング。さらに、20分ほど苔むした古道を歩くと、滝を一望できる展望台に着いた。

大山滝(鳥取県琴浦町)は2段構成で、総落差は約42mある。上段が約28m、下段が約14m。日本の滝百選のひとつである。緑の木々の間を水量も豊富に流れ落ちる姿は、優美のひとつだ。滝壺まで行ってみる。途中、足場の悪い急斜面は鎖を掴んで降りる。滝壺から見上げると、美しさに迫力が加わった。轟音が谷間にこだまし、飛沫が涼風と一緒に頬を濡らす。束の間、暑さを忘れ、汗が引いた。

このあと、いったん米子に戻り、新庄川や日野川の上流で夏の清流を追った。

(左) 米子市から国道181号線を真庭市(岡山県)方面へ。日野町根雨で日野川と別れ、四十四峠を越えて新庄村に入ると、新庄川の細い流れが姿を現した。美甘溪谷では、清流が巨岩に砕けて涼やかな風を運んできた。

(下) 根雨に戻り、南下して日南町へ。鬱蒼たる森林に抱かれ、変化に富んだ日野川上流の溪谷が続く。河川敷の背丈を超える葎を分けて川岸へ行ってみた。真っ青な夏空を映して、清流はあくまで青く澄んでいた。

